

2026 年度 北海道大学 前期 国語

一

問一 1Ⅱ提唱 2Ⅱ簡潔 3Ⅱ兆(萌) 4Ⅱ潮流

問二 個人情報に対する意識の低さへの驚きに加え、元の所有者の痕跡が残るものを知らない人が使い続けることに不気味さを覚えるから。(六〇字)

問三 ごみにはモノの価値や所有者の痕跡が残っており、その廃棄行為には生き物を捨てる時同様苦しみが伴うことを強調しなかったから。(六〇字)

問四 社会レベルで資源を循環させごみをなくそうとしても、資源をごみとして廃棄する人々の意識は変わらないため、暮らしのレベルではごみという概念が消えることはない。(七七字)

問五 ごみを再利用し所有者の痕跡を浄化するくず文化が失われ、モノとごみが二極化する現在、ごみを現代人の暮らしを反映する生活文化として捉え、モノの価値や所有者の痕跡を浄化し苦しみを伴わずにそれを生み出し処理できる新たな仕組みを構築すべきである。(二一九字)

二

問一 聡明さは、紆余曲折を経て自分の力で見つけ出す一つの物の見方だから。(三三三字)

問二 マスメディアが世界を類型的に解釈させ、世界との相互関係を通じ物の見方や人格を形成する経験を奪う状況。(五〇字)

問三 半ば強制的な教育による子供の認知強化が道德的に正しいのであれば、認知強化剤の自由な摂取を忌避する理由はないとする議論。(五九字)

問四 紆余曲折を経る過程を軽視し、決められた結果を効率よく達成する教育を評価する傾向。(四〇字)

問五 既定の結果の効率よい達成を重視するのではなく、子供が世界との相互関係において紆余曲折を経ながら自己を変容し、自らの力で物の見方と人格を形成できる経験を育むもの。(八〇字)

三

問一 イⅡ森川許六の器量としては

ハⅡ私の絵画の先生である森川許六の絵画

ホⅡこの後鳥羽上皇のお言葉

問二 絵画と俳諧の二つを学んでその作用が一つなのは感心すべきことだということ。(三六字)

問三 松尾芭蕉の志す俳諧は全くむだなものであり、世間の人の好みに反して役に立たないものだという。(四七字)

問四 俳諧も、古人の表現の形式ではなく精神を追求しなければならぬ点で、空海の書道と同じだということ。(四八字)

四

問一 aⅡとし bⅡかならずしも cⅡつひに dⅡもし eⅡのみ

問二 なんぞふぐをもつてせざるや(と)

問三 死去すれば礼に従って葬るものだ。礼に反する命令に従ってはならない。

問四 たとえ礼にはかなわなくても、死んだ親の願いをかなえてやるのが真の親孝行であり、古来の礼に従うばかりで親を思う心がないよりもずっとよいという考え。